

- 1 題材名** 曲想を感じ取ろう（5時間）
- 教材名 「だれかが口笛ふいた」 阪田寛夫日本語詞／フランス民謡（歌唱）
 「まっすぐに」 泉谷小学校創立30周年記念イメージソング（歌唱）
 「ハンガリー舞曲第5番」 ブラームス作曲（鑑賞）

学習指導要領との関わり

A 表現 （1）歌唱イ「歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」

エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」

B 鑑賞 （1）鑑賞ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」

ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。」

〔共通事項〕（1）ア(ア)リズム、速度、旋律、強弱、調、拍の流れやフレーズ
 (イ) 変化、反復

2 題材について

（1）題材観

高学年の鑑賞の学習では、曲想とその変化などの特徴と感じ取って想像し豊かに聴くことや、聴いて感じ取ったことを言葉で表すなどして、演奏のよさを理解することが大切である。また、鑑賞の学習で音楽を形づくっている要素と自分の感想とのかかわりを思考することは、自分の思いや意図をもって表現することにもつながっていく。児童はこれまでの鑑賞の活動の中で、主に、3年生では、「かね」で強弱、「メヌエット」で音の動きやリズムなどから生み出される感じの違い、4年生では「つるぎのまい」「白鳥」の2曲を聴きくらべ、それぞれの音の動きやリズム、速さや強さなどの違いを感じ取る学習を行ってきた。また、鑑賞だけでなく、歌唱、器楽の教材でも様々な曲想の楽曲に触れてはいるが、教師からの助言が無ければ、それらを意識して感じ取ったり、自ら表現に生かしたりすることはまだ少ないと思われる。そこで、本題材では、鑑賞で感じ取った曲想を、体の動きを考え、目で見える形で表すことにより、子どもたちの曲想に対する意識をさらに高め、自分から進んでそれを生かした歌唱表現ができるようにしていきたいと考え、本題材を設定した。

（2）児童の実態

本学級は明るく元気の良い子どもが多く賑やかなクラスである。教師側の投げかけに対し反応の豊かな子どもから薄い子どもまで幅が広い。

○実態調査（男子16名、女子15名 計31名、11月1日実施）

①音楽の学習は好きですか

- ・好き・少し好き 22名（71%）
- ・少しきらい・きらい 9名（29%）

②音楽の学習の中でどの活動が好きですか（複数回答）

鑑賞16名（52%）体を動かす活動 17名（55%）

③音楽の学習の中でどの活動が苦手ですか（複数回答）

鑑賞7名（23%）体を動かす活動3名（10%）

④音楽を聴いて指揮をしたり、動きを考えて動くことはできますか。

- ・できる・少しできる 22名（71%）
- ・少しできない・できない 8名（26%）
- ・無回答 1名

⑤音楽を聴くときどんなことに気を付けて聴いていますか（複数回答）

- ・リズム 25名（81%）
- ・速さ 23名（74%）
- ・強弱 19名（61%）
- ・曲の感じ 13名（42%）
- ・音の重なり 12名（39%）
- ・変化 11名（35%）
- ・拍子 10名（32%）
- ・くり返し 10名（32%）
- ・旋律 8名（26%）
- ・調 6名（19%）
- ・拍の流れ 5名（16%）
- ・フレーズ 5名（16%）
- ・和声の響き 4名（13%）
- ・問いと答え 2名（6%）

⑥聴き取り

2種類の演奏を聴き比べて、なにが変化したか答えましょう。

- ・速さ 正答 22名 70%
- ・強弱 正答 26名 84%
- ・長調・短調 正答 6名 19%
- ・拍子 正答 11名 35%
- ・3部形式 正答 13名 42%

○考察

実態調査より、児童は音楽を聴くときにリズム、速さ、強弱に注目して楽曲の全体を味わって聴いていることがわかる。音楽を形づくっている要素の中の旋律や和声の響きに気を付けて聴いている児童は少ない。また本題材でねらっている曲想の変化の中の調についても気付いている児童は少ないことがわかる。そこで調の変化に気づくよう部分を取り出して聴いたり、和声の響きを確認したりすることが必要となってくると思われる。また音源についても、変化のわかりやすいものを選択する必要があると思われる。

(3) 指導観

「誰かが口笛ふいた」は、フランス民謡で短調に始まり途中で長調に転調する特徴をもっている。A-B-C とリズムの構成や旋律の雰囲気の変化していき曲想の変化をとらえやすい楽曲である。

「まっすぐに」は本校創立30周年記念イメージソングとして、本校の校長が作詞し授業者が作曲した自作教材で、これから行われる12月の記念式典での発表に向けて全校で取り組むものである。楽曲はA-A'-B-B'の二部形式の部分二部合唱で構成され、歌詞内容が楽曲に反映される形となっている。本校の全校児童が歌えるように音域やリズムなど発達段階に合わせて作曲されている。前半の軽やかなリズムと後半の長いフレーズを対比させ伸び伸びと表現させたい。また作詞、作曲者の思いを伝え、感じ取らせて表現させたい。

ハンガリー舞曲第5番は、ドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス Johannes Brahms (1833~1897)の作曲で、1869年に出版された「ハンガリー舞曲集第1集、第2集」全21曲の中の1曲である。ブラームスはハンガリーのバイオリン奏者エドゥアルト・レメーニ Eduard Remenyi (1828~1898)の影響によりロマの音楽に特別に興味を示すようになったと言われている。オリジナルはピアノ連弾用に書かれた嬰へ短調のものだが、ここではシュメリング編曲によるト短調の管弦楽版を鑑賞する。旋律のくり返しや変化、速さや強弱などコントラストの強い曲想に特徴のある楽曲で、曲想の移り変わりを感じ取ることが容易な教材である。またテンポ設定は、自由に変化させることが可能で表現の許容範囲が広いことから、指揮による表現の教材としても適していると考えられる。19世紀ロマン派の作品らしく、演奏者の主観的な表現を自由に持ち込むことができることを指揮や体を動かすことで感じ取らせたい。そして「ハンガリー舞曲第5番」で感じ取った曲想の変化について「誰かが口笛ふいた」の中での表現に生かしていきたい。

普段の学習の流れでは体を動かす活動を常時活動として位置付けているが、本時では楽曲をより深く味わわせるための手段として、一時間を通して体を動かす活動を取り入れることを試みしてみる。終盤では楽曲のもつ特徴を感じ取り、音楽を見えるように体で表す活動を行う。高学年で発達段階的に動くことに対し苦手意識をもつ子どもが増えていることが予想されるため、実態を考慮してグループ構成を行い

活動が流れるようにしたい。「ハンガリー舞曲第5番」では拍の流れやフレーズ、強弱や速度、リズム、調などの変化を聴き取るだけでなく、体全体で感じ取り楽曲全体を味わわせていきたい。また、体を動かす活動を取り入れることを考慮し、アゴギク、ダイナミックが強調されている演奏を教材音源として選択し、動きを引き出すための手だてとしたい。

イメージソングについては本校の児童の実態に合わせて旋律やリズム、声域に考慮して作曲した楽曲なので児童は抵抗感無く取り組んでいくと思われる。また作詞、作曲者の意図も汲み取り思いや意図をもって表現しようとしてくれることを期待している。そして鑑賞の学習で感じ取ったことを歌唱表現に生かし、思いや意図を表現する力を育んでいきたい。

3 題材の目標

- 歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。
- 楽曲を聴いて感じ取ったことや曲想の変化を体の動きで表すなどして楽曲の特徴を理解する。

4 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>* 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。関一①</p> <p>* 楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴く学習に主体的に取り組もうとしている。関一②</p> <p>* 想像したことや感じ取ったことを言葉や体の動きで表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。関一③</p>	<p>* 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの動きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。創一①</p>	<p>* 歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。技一①</p>	<p>* 楽曲全体にわたる曲想を感じ取って聴いている鑑一①</p> <p>* 曲想とその変化等の特徴や音楽を形づくっている要素の関わり合いから想像したことや感じ取ったことを言葉や体の動きで表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。鑑一②</p>

5 題材の指導計画及び評価計画（5時間扱い）（本時4／5）

時配	ねらい○学習内容・学習活動	教師の働きかけ	評価規準 評価方法
第1次	ねらい：各声部を生かし声を合わせて歌う。		
1 2 時間	○歌唱教材「だれかが口笛ふいた」を歌う。 ・曲想の変化を感じ取って歌う。 ○歌唱教材「まっすぐに」を歌う。 ・拍の流れにのって低声部の音程を正確に歌う。	・旋律の持つ特徴や変化について気づかせる。 ・作詞者や作曲者の思いを受け取って歌ってほしいと伝える。 ・低声部の音程を正しく歌えるよう支援する。	関一①活動の観察（演奏の聴取） 技一①演奏の聴取
第2次	ねらい：曲想の移り変わりを楽しんで聴いたり言葉や体で表現したりする。		
2 2 時間 本時	○鑑賞曲「ハンガリー舞曲第5番」を聴く ・楽曲の仕組みを知り全体的に味わう。 ・曲想の移り変わりを聴き取る。 ○楽曲をより深く味わう。 ・楽曲の部分を体で表し、より深く聴き取る。	・曲の流れを追える掲示物を用意する。 ・体を動かす活動を取り入れ曲想の変化を感じ取る手段とする。	関一②活動の観察（聴取の態度） 関一③活動の観察（態度・発言） 鑑一①活動の観察（聴取の態度・身体反応、） 鑑一②活動の観察（ワークシート）
第3次	ねらい：曲想を感じ取って部分二部合唱する。		
1 1 時間	○「だれかが口笛ふいた」を歌う。 ・曲想の変化を感じ取って二部合唱する。	・旋律のもつ特徴や変化を感じ取って歌うよう促す。	創一①活動の観察（演奏の聴取）

6 本時の学習（4／5）

（1）本時の目標

曲想の移り変わりを楽しんで、体の動きで表し、楽曲の特徴を理解する。

（2）視点とのかかわり

【視点2】 思いや意図を表現する力を育むために

○体を動かす活動

本時では、楽曲を聴いて感じ取ったものを、体の動きを使って表現し、友だち

に伝えられるようにしていきたいと考える。ア～エの4つの部分は、強弱・速さ・リズム・調などが違うので、それぞれの部分を各グループで分担し、どのような動きがふさわしいのか話し合いながら、進めさせていきたい。また、体全体を動かすことに躊躇することがあったら、体のどこか一部分でも動かして、表現してもいいことを助言していきたいと考える。

○音源の選択や工夫

いろいろな指揮者の演奏があるが、教師自身が聴き比べ、子どもたちが曲想の変化を感じ取りやすい音源を選んだ。また、各グループに、ア～エの1部分だけ入ったCDを配布し、体の動きを考える活動の中で何度でも聴き返せるようにした。

○常時活動の工夫

本時の活動がスムーズに行えるように、常時活動では体を動かす活動を行っている。「おえびす」では言葉とボディパーカッションで即興的にリズムを表現する。また、ストップアンドゴーでは、教師の即興演奏を聴きながら速さやリズムに即時的に反応する。これらの活動を通して、音楽を全身で感じ取れるようにしていきたいと考える。

(3) 本時の展開

○学習内容・学習活動〔共通事項〕	○教師の働きかけ◆評価規準
<p>○おえびす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボディパーカッションでコールアンドレスポンスをする。 <p>○始めの歌「歌いましょう」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指揮者の指揮にあわせて歌う。 <p>○「まっすぐに」を歌う。</p>	<p>○言葉を4拍分のリズムで即興的に表すように促す。</p> <p>○指揮者にはどのような速さ、ニュアンスで歌ってほしいのかを伝えるように、歌い手には指揮者の振り方からどのように歌ってほしいのかを汲み取って歌うよう促す。</p> <p>関一①【表情・態度の観察】</p>
<p>音楽が見えるように動きで表して曲想の変化を感じ取りましょう</p>	
<p>○常時活動（体を動かす活動）をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストップアンドゴー ・基礎リズム ・拍子、強弱、速度 <p>○「ハンガリー舞曲第5番」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲全体を通して聴き曲の流れを思い出す。 	<p>○音楽をよく聴いて身体反応させる。</p> <p>○自分の体を自分でコントロールできるよう意識させる。</p> <p>○楽曲の流れがわかるよう帯状の掲示物で示す。</p> <p>○指揮をしながら聴かせ音楽のまとまり、速さの揺れや強弱を感じ取らせる</p>
<p>○楽曲の部分の特徴を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アー旋律の高低、くり返し ・イーリズム、速さの変化、強弱 	<p>想像したことや感じ取ったことを言葉や体の動きで表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に主体</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ウー長調、リズム ・エー速さの変化、リズムの対比 <p>○グループに分かれア～エ部分の動きを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8グループ ・部分を聴いたり全曲通して聴いたりしながら音楽が見えるように担当部分の動きを考える ・音楽の特徴（リズム、強弱、速さなど）を手がかりに動きを考える。 <p>○全曲を通して聴きながら体を動かす活動を通して曲想や形式を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2グループに分かれて発表する。 ・お互いのよいところを認め合う。 <p>○感想や気づいたことをまとめる。</p> <p>○次時の予告をする。</p> <p>○終わりの歌「さよなら」を歌う。</p>	<p style="text-align: center;">! 的に取り組もうとしている。関一③ !</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ○音源を聴かせながら確認する。 ○速さや強弱、リズム、旋律の動きなど音楽の特徴が見えるように表すよう促す。 ○部分ごとにグループで音楽が見えるよう動きを考えさせる。 ○各グループに音源と CD ラジカセを持たせる。 ○動きの思いつかないグループには動きのヒントを与える ○音楽の特徴が動きに反映されているグループがあれば称揚する。 ○動くことで体で感じる感覚をつかませる。 ○音楽をよく聴いて拍の流れにのって動くよう促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>曲想とその変化等の特徴や音楽を形づけている要素の関わり合いから想像しことや感じ取ったことを言葉や体の動で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のさを理解して聴いている。鑑一②</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートにさらにわかったことや気付いたことがあれば書かせる。 ○鑑賞で学んだことを表現に生かしていくことを伝える。 ○指揮者にはどのような速さ、ニュアンスで歌ってほしいのかを伝えるように、歌手には指揮者の振り方からどのように歌ってほしいのかを汲み取って歌うよう促す。
--	---

